# 令和５年度　彦根市文化観光推進協議会
# 会議録

# 令和５年度　彦根市文化観光推進協議会

第１　開催日時　　令和６年３月27日(水)　午後２時00分から午後３時00分まで

第２　開催場所　　彦根市役所　５階　第１委員会室

第３　出席者　　出席委員

| | | |
|---|---|---|
| 滋賀大学　産学公連携推進機構　特任教授 | 上田　雄三郎 | |
| 彦根観光協会　専務理事 | 安居　庄二 | |
| 近江ツーリズムボード | 内記　真美 | |
| | （代理：小島　聖巳） | |
| ひこね文化デザインフォーラム　理事長 | 戸所　岩雄 | |
| 彦根市観光文化戦略部長 | 久保　達彦 | |
| 彦根市建設部長 | 關谷　真治 | |
| 彦根市教育委員会教育部長 | 前川　学 | |
| 彦根城運営管理センター　所長 | 宮川　敏明 | |

（欠席委員）

| | |
|---|---|
| 滋賀県立大学　地域共生センター　講師 | 上田　洋平 |
| 彦根商工会議所　副会頭 | 上田　健一郎 |
| 彦根市都市政策部長 | 廣田　進彦 |

◇事務局(市関係所属)

| | |
|---|---|
| 観光文化戦略部文化財課長 | 井伊　岳夫 |
| 彦根城博物館副館長 | 渡辺　恒一 |
| 彦根城博物館管理課長 | 野村　雅之 |
| 観光文化戦略部観光交流課課長補佐 | 山本　武 |

第４　議題

１　文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

第５　会議資料

資料１　彦根市文化観光推進協議会設置要綱・会議公開要領・委員名簿
資料２　彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画_概要版
資料３　彦根城・彦根城博物館を拠点とした文化観光推進地域計画
資料４　計画目標の達成状況
資料５　地域文化観光推進事業の進捗状況

# 会議録

## 1　文化観光推進法に基づく地域計画の進捗状況について

◆資料 1～5 に基づき事務局から説明

○久保委員
　計画目標の達成状況の中で、外国人の満足度調査が未実施なのは、単純に母数が少ないからか。

○事務局（観光交流課山本）
　実施をお願いしている近江ツーリズムボードからは、そのように聞いている。

○事務局（近江ツーリズムボード小島）
　補足説明。調査は宿泊施設を利用した外国人を対象に実施をするが、そうなるとまだまだ母数が少ない。とはいえ、だんだん増えてきているので、令和 6 年度の調査からは実施していきたい。

○戸所委員
　前回もお願いしたが、彦根の場合、他都市に対する魅力として、楽々園等の木造棟の活用が計画にも謳われているが、ある流派の全国的な茶会の開催について、彦根市での開催を問い合わせたところ、使用できないと言われたと伝え聞いた。炭火を使用することができないと。松江など他都市では使用しているところもあるので、彦根市に対し火の使用ができるようにお願いしていたが、その後の進捗は。

○事務局(文化財課井伊課長)
　茶事の場所については、清凉寺や埋木舎、博物館木造棟などで開催するというのは伺っている。

○戸所委員
　楽々園で全国的規模の茶会イベントができなかったというのは非常に大きな問題だと思う。消防法の問題だけだと思うので、もう少し積極的に検討いただきたい。

○事務局(文化財課井伊課長)
　市内のいろんな場所を借りて開催すると伺っている。

○戸所委員
　令和 6 年度の事業予定で、市の財政状況が厳しいために、能・狂言の事業予算が認められなかったとあるが、彦根の文化を他都市へ発信していく大きな要素として、能・狂言などが位置付けられていると思うが、なぜこれが予算化できなかったのか。

○事務局（彦根城博物館管理課野村課長）
　能・狂言の事業が文化的に非常に大事であることは理解しているため予算要求したが、市長の方針として、市民の命・生活を守る事業を優先して予算配分を行った。社会教育的な要素が強い本事業については、市民の命・生活を守る事業からは外れるという判断をされたと受け止めている。

○戸所委員
　命・生活を守るということと文化の香り高きまちということとが優劣がつくようなものか。文化とは、市民の心の豊かさ、生きる目的を醸成する事業をなぜもっと評価されないのか。

○事務局（彦根城博物館管理課野村課長）
　最終的には市長が判断されたものなので、我々では判断できない。

○上田雄三郎会長
　ここまでで、1つ目のお話として、文化財の保護とどう活用するかについて、彦根の観光部門としてどうしていくのかの考え方を示していかねばならない。また、2つ目として、確かに首長が決めているのは事実だと思うが、協議会としてどのように話をしていけばいいのか、委員も彦根の観光・文化の醸成・発信について良かれと思って発言しているが、市としてはどのように考えているのか。

○事務局（観光交流課山本）
　観光部局としては、文化財を守っていきながら活用する、活用しながら守っていくというのは、皆さんの認識のとおり。今回の茶会の件について経緯は不明だが、楽々園は火の使用だけでなく大掛かりな人数でとなると、水場がなくトイレもないので、向いていないということで、総合的に検討した上でできないと判断されたのではないか。

○戸所委員
　水がない、トイレがないからできないということであるなら、活用していただけるようにするには、どうしたら可能になるのか、どんな手立てがあるのかを考えてもらいたい。

○事務局（観光文化戦略部久保部長）
　お茶会の話については、水やトイレがないことや火気厳禁であることを承知の上であれば、使用しもらって構わないと回答している。水やトイレは八景亭の施設を使用してもらってよいと伝えたが、先方のほうからお断りされたもの。

○戸所委員
　今回はお断りされたようだが、それでも使用したいと希望された場合に、主催者側もそうした不便さを覚悟したうえで使えるというのであればありがたい。

○事務局（観光文化戦略部久保部長）
　そういうことであれば問題は無いと思う。

○上田雄三郎会長
　情報が不確かな部分があったが、整理したうえで、ご意見として、環境が整うのであれば何とかやりたいと希望される場合に、受け入れられるのかどうかということ。

○戸所委員
　何とかそういう声の人を拾ってでも活用する方向で、同じスタンスに立って検討できるとよい。

○小島委員（内記委員の代理）

楽々園の件で、近江ツーリズムボードでも御書院で大名の食事体験という事業を実施したが、その際に利用規定がきまってないことから、現在貸し出しができないと聞いていた。体験コンテンツとしてインバウンドでの需要が高いので、京都でも一人 7,000 円などで提供されていることから、うまく観光資源として活用したい。そのあたりの進捗やそうではなく使用できるというのあれば、教えて欲しい。

○事務局（文化財課井伊課長）
文化財の活用については、市として取り組んでいく。安全・安心に使っていただくためには修繕は必要。利用規定がないというのは、保存活用計画ができていないと主旨かもしれないが、どのような活用をしていくべきなのかを記載していくものがまだできていないということと推測する。活用できるものは活用していくという方向性は同じ。使うために前提となるところをまず作るということでお時間を頂戴しているところ。

○久保委員
近江ツーリズムボードさんとしては、収支がトントンで良いと考えているのか、プラスになるようにしようとしているのか。

○小島委員（内記委員の代理）
もちろんプラスが理想で、今「稼ぐ観光」という考えがある。近江ツーリズムボードとしては、稼いだお金をいかに還元するかであり、稼いだお金を文化財の保存に活用していければいいと考えている。日本の料金設定が安いこともあり、京都の事例では収支がトントンでだったことから、これではいけないと、オリジナルグッズを売店で販売して稼いでいる。アイデアを出して稼いでいければいいと思っている。

○戸所委員
稼ぐということが悪いイメージで語られることが多いが、彦根の文化、文化の環境・景観というのは高い評価を受けている。例えば昨年は、埋木舎でのイベントで、昼食付でお茶会をして 35,000 円だったが即日完売した。これは儲けるがために高く売るというよりは、それだけの価値の値するものを提供できるポテンシャルを持っており、それの評価をして満足して帰ってもらうということなので、控えめにトントンということではなく、どんと儲けて、彦根の文化振興に還元されるといい。

○久保委員
儲けることのイメージが悪いというよりは、それが必須の条件として、行政ばかりが動くではなくて、民間が動いてもらえるほうがより動きやすいと思う。

○小島委員（内記委員の代理）
グリーンスローモビリティの社会実験について、令和 6 年度はないのか。

○事務局（建設部關谷部長）
予算としてはついていない。

○久保委員
先ほどの楽々園に係るお茶会の件について補足。令和 7 年度の実施要領を見ると、楽々園の使用については計画に入っていない。清涼寺や彦根城博物館は使うようである。

○上田雄三郎会長

計画目標の達成状況の中で、稼ぐ力ということになると、インバウンド、外国人観光客をどのように誘客するかがポイントになってくるが、令和５年実績は目標を下回った。その要因として、コロナの影響以外に何かあるか。

○事務局（観光交流課山本）
コロナになる直前が外国人観光客数は過去最高値であった。その後コロナとなり、激減。令和２、３年はほぼおられない状態。令和４年になってやっと復活してきたという感じ。令和５年がコロナ前と大きく違うのは、中国の方の来日がそこまで回復していないことが大きい。
彦根市に来られている外国人は、台湾が最も多く、東アジアでは、香港、タイ、インドネシアなど。欧米では、アメリカ、スペイン、ドイツが多い。滋賀県ではあまり時差の無いオーストラリアをターゲットとしたり、琵琶湖と形が似ているというところからオーストリアにアプローチを掛けてたりしている。台湾などは親日家が多く、お城など日本の歴史的文化に興味を持つ人が多い。京都がものすごくインバウンドが多いが、初めて日本に来られる外国人観光客は、京都や東京などの大都市にまず行かれるが、何度も来られている方は、大都市に近くて日本の文化を感じられるところで、滋賀県に来られているということも聞いている。目標値は令和元年度実績値であり、もう少し届いてはいないが、万博や、世界遺産登録などを活用すれば、もう少し見込めるのではないかと考えている。

○上田雄三郎会長
今の分析については、観光協会も同じ感覚か。

○安居委員
同じ感覚である。

○上田雄三郎会長
少し心配な点が、外国人の場合、旅行形態が団体から個人へと大きく変わってきているいう中で、その対応、ガイドという面で、ボランティアガイドではなく、彦根の文化を伝えるという点では、もっと高い有償ガイドを強化して、外国人の満足度を高めるということが重要になるのでは。日本の文化＝彦根の文化とまでは言わないが、それに近い状況であると思うので、この良さを活かすためにも、こういった活動が今後必要になるのではないかと思う。数字の量でなく、質になってくると思う。

○事務局
彦根市にはたくさんの魅力あるコンテンツがあるので、その魅力をできるだけ活用してその価値に似合う経済的効果を彦根市に運び、それを活用して守っていきたいと考えている。

○久保委員
満足度のところで、そこそこ高い数値であるものの、右半分（ソフト面）が左半分（ハード面）に比べて少し低い。食事の内容、飲食店や物販店の店員のおもてなし、土産物商品の内容、費用の適切さ、という項目は、一番すそ野の部分だと思うので、そうしたところのテコ入れが必要かと思う。

○事務局（観光交流課山本）
確かにおっしゃるとおりなので、関係組織を通じて取り組んでいきたい。

○安居委員

観光協会の中でも、おもてなしをどうしていくか、様々な部会でも話し合いを行い、ブラッシュアップすべく取り組んでいる。

○上田雄三郎会長

観光には、「経済的効果（どれだけ儲かるか、付加価値など）」があるが、他にも「文化的効果」があり、文化を発信する、伝統工芸の後継者が見つかるなど、文化を継承できる機会となる。もう１つ「社会的効果」があり、おもてなし等でお客様と話をする（コミュニケーションをとる）ことで、生きがいを持つということ、福祉にもつながると思うが、そのような効果がある。儲けるだけでなく、文化的・社会的な効果も重要で、だからこそこの会議が観光文化振興という形になっているのかなと。彦根らしさというのはそういうところかと思うので、これからも進めてもらいたい。